自然はバランスを保っている

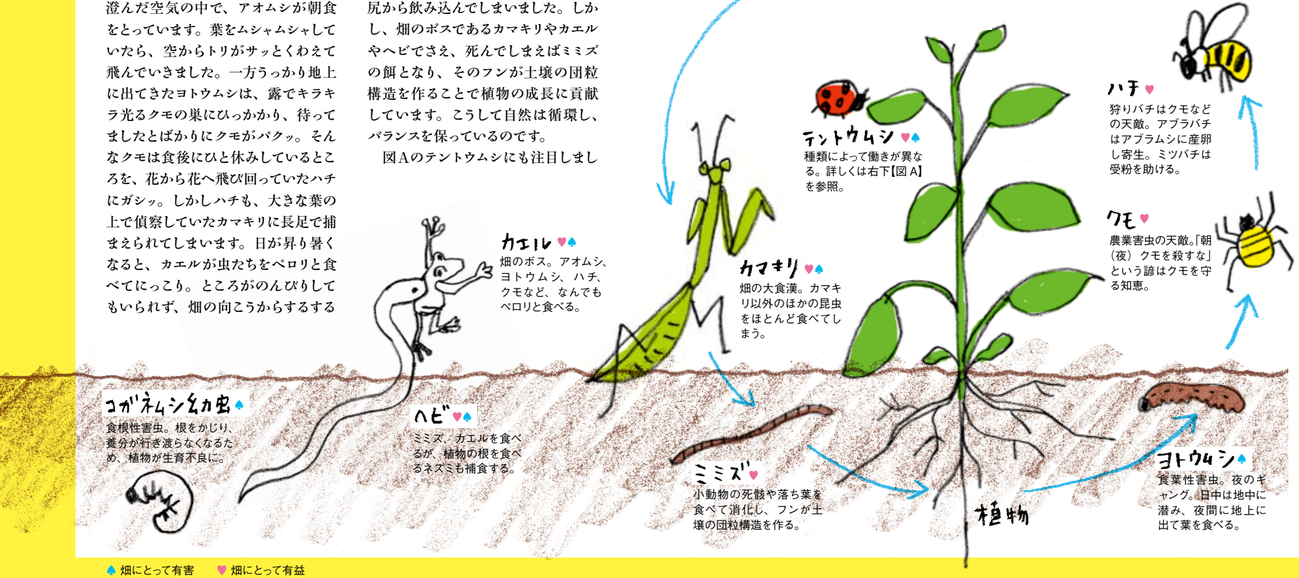
畑の中の生き残りバトル

夏は野菜も虫も、日光をいっぱい
浴びて、たくさん食べて、すくすく成長します。
野菜の葉を食べる虫がいたり、その虫を食べる動物がいたり。
たくさんの生き物たちとともに、畑の循環サイクルをのぞいてみましょう。

お日様の光がたっぷり注ぐ夏の畑。澄んだ空気の中で、アオムシが朝食をとっています。葉をムシャムシャしていたら、空からトリがサッとくわえて飛んでいきました。一方うっかり地上に出てきたヨトウムシは、露でキラキラ光るクモの巣にひっかかり、待ってましたとばかりにクモがパクッ。そんなクモは食後にひと休みしているところを、花から花へ飛び回っていたハチにガシッ。しかしハチも、大きな葉の上で偵察していたカマキリに長足で捕まえられてしまいます。日が昇り暑くなると、カエルが虫たちをペロリと食べてにっこり。ところがのんびりしてもいられず、畑の向こうからするすると首を出したヘビが、一瞬にしてお尻から飲み込んでしまいました。しかし、畑のボスであるカマキリやカエルやヘビでさえ、死んでしまえばミミズの餌となり、そのフンが土壌の団粒構造を作ることで植物の成長に貢献しています。こうして自然は循環し、バランスを保っているのです。

図Aのテントウムシにも注目しましょう。ナナホシテントウはアブラムシ、アカホシテントウはカイガラムシ、キイロテントウはうどんこ病菌を主食とします。カラフルなユニフォームを着た頼もしい畑のレスキュー隊です。ただし、星の多いものはジャガイモやナスの葉を食べる害虫なので注意してください。

むさしの農業ふれあい村では、子どもたちは生き物の観察に目を輝かせます。大事に広げた手のひらには、身体が白くてオレンジ色頭の幼虫。カブトムシかと尋ねられましたが、残念ながらコガネムシの幼虫で、野菜の根を食べてしまう畑の害虫だと説明しました。またある時は、ハチがアオムシを捕まえて上手に丸めてもっていくのを一緒に観察しました。このように自然界には複雑な営みがあります。畑にいると、生き物たちがバランスを保っていることを自然と学ぶことができるでしょう。



アオムシ ♠
食葉性害虫。チョウの幼虫。葉を食べ、大小の穴をあけ、葉脈だけになることも。

トリ ♥♠
ミミズやアオムシなどを食べる。作物を食べてしまうので要注意！

【図A】テントウムシの種類とその働き

♠ 畑にとって有害　♥ 畑にとって有益

参考資料
『完全版 農薬を使わない野菜づくり』徳野雅仁　洋泉社／『自然農薬で防ぐ病気と害虫』古賀綱行　農文協
『家庭園芸シリーズ 園芸植物・病虫害防除のすべて』村田道雄　日東書院
『別冊ＮＨＫ趣味の園芸 病害虫防除ハンドブック』阿部善三郎他　日本放送出版協会

武蔵野の農業歳時記

多方面への展開で農業を守る都市農家

市民への田植え指導

武蔵野市といえば都内有数の住みたい住宅地域ですが、昭和50年には市の3分の1近くが農地でした。押し寄せる宅地化の波の中で、現在市内に残された農地は、わずか3.4%。農家の数も約80軒に減ってしまいました。その中に、武蔵野市だけでなく埼玉県にも水田や畑を持ち、幅広く農業を営み、私たち市民に農や農文化を伝えてくださる片井木清一さんがいます。もともと武蔵野市には水田はなく、陸稲（おかぼ）という畑作で作るお米が、わずかに作られていた程度でしたが、同氏は深谷で水田による稲作もされており、武蔵野市民のために田植え体験や収穫後の稲藁を使った藁葺え細工を伝えて下さっています。

片井木清一
90歳間近の17代目農家。
消費者の皆さんに農作物の出来る様子や背景を知ってもらいたいと、様々な催しを実施されています。

齋藤村長が教える【菜園まめ知識】

「米ぬか」おそろべしパワー！

私達の生活で身近にある米ぬかには、発酵微生物群に必要なリン酸、カルシウム、ビタミン類等が豊富に含まれています。それを利用する日本人の食文化は、白米を食べるようになった江戸時代からありました。たくわんやぬか漬けは誰もが知っているものです。

ところが米ぬかには、持続可能な土作りのアイテムという大きな効用もあります。米ぬかを播くと、土壌の消耗が少なく、肥沃さが保たれると言われています。米ぬかはビタミン、ミネラルに富み、野菜作りに使うとうまみ成分のもととなり、植物の肥料となります。（米ぬか肥料成分：窒素約3%、リン酸約5.5%、カリウム約2%）。また堆肥を作る際に、堆肥化に働く微生物の栄養剤として、あらゆる堆肥に5%程度混合すると堆肥化が促進されるとされています。それだけでなく土中の微生物（善玉菌）を活性化し、病気を抑制する働きもあります。また播く時期に注意が必要ですが水で溶いてから播くと、除草剤としての効果も期待できるようです。

齋藤瑞枝
武蔵野農業ふれあい村代表、
緑化工学学会員、環境情報センター会員、元武蔵野市農業振興基本計画見直検討委員

このたびの東日本大震災により被害を受けられたみなさまに、心よりお見舞いを申し上げます。
表紙で取り上げたトウモロコシの花言葉は「財宝」。
これからも日本の宝を信じ、私たちのできることを行ってまいりたいと思います。
一日も早い復興と皆様のご健康をお祈りいたします。

むさしの
農業ふれあい村
通信 vol 5
通算 no.35 ／ 2011 夏号

企画・監修　齋藤瑞枝
編集　北地智子
デザイン　梁木明子
発行　NPO法人武蔵野農業ふれあい村
http://www.agrifureai.com/
info@agrifureai.com
印刷・協賛　（株）文伸
協賛　武蔵野市緑化環境センター、武蔵野市商工会議所
JA東京むさし、ハウス食品（株）、
サントリーフラワーズ（株）、日本IBM（株）

© 2010 NPO法人武蔵野農業ふれあい村

当NPO法人は、実際行う農業耕作体験をとおして、
農と食の問題を考え、
「自然と人の関わり」、「人と人」、「人と地域社会」をつないで
次世代に伝えていく活動をしています。

農業塾はこちらでやっています
農業ふれあい公園
東京都武蔵野市関前5-19

NPO法人武蔵野農業ふれあい村を応援してくださるスポンサー、
むさしの農業ふれあい村通信を置いてくださる施設、お店を募集しております。
問合せ先 info@agrifureai.com

文伸
BUN-SHIN
「文伸」も
応援しています

NPO法人むさしの農業ふれあい村の活動

今年も農業塾スタート。夏野菜も勢ぞろい！

農業塾

「年間カリキュラムに基づき農家さんから学び、
デモンストレーションを見て、実習する」という3本柱が特徴の農業塾。
今年も80組のご家族をお迎えして始まりました。
無事に植え付けも終了し、これから夏の収穫が楽しみです。

第４期農業体験教室が、今年も４月１日より始まりました。３月に起った東日本大震災の生々しい体験の傷も癒えぬ中、大気、水、農作物、海産物などに不安を持ちながらも、今自分たちの置かれている環境の中で、できることを粛々と行おうと、体験教室は例年通り開催され、作業をしています。

今年も10種類の夏野菜（トウモロコシ・エダマメ・キュウリ・トマト・ミニトマト・ミニカボチャ・ピーマン・パプリカ・ナス・ジャガイモ）を作っています。わずか10㎡足らずの広さですが、例年一家４人で食べきれないほど収穫できます。植え付けが終わるまで約１ヶ月半は、畝の土作りからマルチ張り、植付けと体力のいる汗だく仕事でしたが、ようやく植えそろい畑らしくなりました。これからは野菜の生長を見ながら、いろいろな管理をしていきます。

その過程で皆さんは天候や生態系による自然の営みに驚異を感じていらっしゃいます。この体験教室が大地の恵みである野菜作りを通して、人が生きる根本である食について、今一度考えるきっかけになればと思っています。

今年もお子様から、おじいちゃま、おばあちゃままで、幅広い層の市民の方々が武蔵野市全域から参加されています。人口密度が高く核家族化された都市住宅街の中でも、野菜作りをはじめとした様々な農業体験を通し、いろいろな人と人とのつながりができることでしょう。

デモンストレーションでこれからの作業を確認。

長屋門にて農家さんによる夏野菜の植え付けの講習。

いよいよ実習。家族みんなでナスやカボチャの誘引に挑戦。

広がる、卒業生の皆さんの活躍

農業塾卒業生　市民

今年3月までに1期生から3期生まで180のご家族が、
1年間の農業塾を体験してきました。
その卒業生の方々が、武蔵野農業ふれあい村の研修生として
またスタッフとして、或いは友の会の会員となって日々活動しています。

【研修生】
現在、第２期卒業生のうち６名が２年目の研修生として、第３期卒業生では13名が研修生１年生として、今年の４期生の体験教室のお手伝いをしています。研修生の１年目は、個人の研修区画を持つと共に、教室のアシスタントとして毎回教室に参加します。２年生はそこから一歩進んで、区画周辺の土作りや作付け計画を自分たちで行い、研修農園の隅々まで目配りしながら、教室の円滑な運営のための環境作りをしています。

研修生の方の試み。コンパニオンプランツ。

【キッチンクラブ】
料理上手の卒業生スタッフを中心に、友の会会員のご希望の皆様と共に、採れたての野菜を使ったいろいろな食べ方や保存の仕方など、昔ながらの智恵を学びながら活動をしています。

【ふれあい村通信、ホームページ】
多彩なスキルをお持ちの方がいらっしゃり、スタッフとなって運営しています。

【第３回キッズ野菜クラブ】
「みんなで耕して、食べて、つながって」を目指し、今年は５月から始まりました。今年は武蔵野第２小学校、境南小学校、大野田小学校、井の頭小学校のお子さんたちが参加。７月には収穫した野菜でカレーを作り、ご家族を招いて食べます。

苗の植え付けと誘引の実習の様子。

【新座共同耕作農場】
５月22日に25名の市民応募者と６名のスタッフで、ジャガイモの手入れ、サツマイモ、サトイモを植え付けました。心配していたお天気も味方をしてくれました。ボランティアスタッフが中間管理をし、７月上旬にジャガイモ、10月中下旬にサツマイモとサトイモの収穫を行います。

植え付けが終わってみんなで、はいポーズ。

農業って楽しい！ 農や食を考える

むさしの農業ふれあい村通信 vol.5

季刊 夏 2011

特集
～自然はバランスを保っている～
畑の中の生き物ウォッチング

NPO法人むさしの農業ふれあい村